



「地獄」って、本当にあるの

地獄は宗教上の想像の世界

「地獄」とは、死んだ人が行く、この世とはちがう想像上の世界といえます。

「地獄」がどんなところかということについては、国によっても宗教によってもちがい、また、行って帰ってきた人もいないので、「地獄」が本当にあるのかないのかについては、今のところ、はっきりとはいえません。

「地獄」については、国によっても宗教によっても、いわれていることはちがいますが、共通しているのは、この世で悪いことをした人が行くのが地獄で、いいことをした人が行くのが天国ということです。宗教上の地獄を、二つほど紹介しましょう。

仏教では、この世で悪いことをした人が落ちる、閻魔(人間のこの世での行いをさばく、地獄の大王)の支配する地下のろうやで、あらゆる苦しみをおわされるとしています。

キリスト教では、死ぬときになっても、自分のおかした大罪をくい改めない人が、永遠の苦しみやばつを受けるところとしています。

いずれにしても、「地獄」というのは、人の心がつくり出したものではないでしょうか。そして、地獄へ行きたくなかったら、悪いことはしないほうがいいようですね。

地獄が入ったことわざ

「地獄で仏に会ったよう」...非常に困っているときに、思いがけない助けを受けて、非常にうれしいことのとえ。

「地獄のさたも金次第」...地獄の裁判でも金で自由になるくらいに、この世のことは、すべて、お金の力でどうにでもなるということ。

(監修・青木 国夫)

